

館長コラム  
埋没林に思う 滝沢 具幸

日常は何事もなく平穏で豊かな環境の中で生活している私達ではあるが、時として自然の持つ本来の荒々しい姿を見せられて、大地のエネルギーのすさまじさに驚くばかりである。  
遠山川に姿を表した埋没林が今回「遠山大地変と埋没林展」で陳列された。この展示は改めて地球の雄大なドラマを見せてくれたものであると思う。天変地異と人は言うがそれ

は地球の生きているあかしなのである。この展示で特に美博入口に置かれた大きな埋没ヒノキは圧巻であった。先端を折られ、ささくれ立った大樹は根本を蝸のようにうねらせながら堂々とその存在を示していた。私はこの造形物に驚きながら、ふと私の知る現代彫刻家の作品を思った。その人は太丸太の先端をチェーンソーで刻み傷つけ、それを何本もモニュメントのように並べ「森」を表現した。彼は大木を刻むことによって自然の力を自己の内側に取り込もうとしたのではないかと思う。

埋没ヒノキは、はるか古代に生き、今我々の眼前に姿を表した。この雄々しい自然の造形物は地の底で長い眠りの時を過ごし、その身に水を吸い上げ、今もその魂が生きている樹なのである。私は遠山川の谷を豊かに潤していた大森林を想像し、オペリスクのような埋没ヒノキの前で古代の静寂な時を想った。

● インフォメーション ⑩→③月 ●

● 美術博物館 ●

◎ 特別展・企画展

遠山霜月祭の世界 ー神・ムラのよみがえりー 10/1(日) → 11/5(日)  
第7回 現代の創造展 2/27(火) → 3/21(水)

◎ 特別陳列

自然収蔵コレクション展 ー集める楽しみ、調べる魅力ー 11/18(土) → 2/21(水)

◎ 平常展示

近代日本画の101人 11/10(金) → 12/10(日)  
作品と親しむ5 菱田春草「蓬萊山」 1/13(土) → 2/12(月・第3)  
抽象という絵画 ー色彩とマチエールからー 1/13(土) → 2/21(水)  
作品と親しむ6 菱田春草「稲穂」 2/17(土) → 3/25(日)

◎ プラネタリウム

秋の番組「ぼん太の秋物語」 9/9(土) → 12/3(日)  
冬の番組 (未定) 12/9(土) → 3/4(日)  
春の番組 (未定) 3/10(土) → →

◎ 特別展講演会

日本の祭祀芸能における遠山霜月祭の位置 10/29(日) 13:30~  
講師：鈴木正崇氏(慶應義塾大学教授)

◎ 特別展講座「遠山霜月祭の世界」

① 霜月祭を支えた遠山地方の歴史 ー中世と近世ー 10/8(日) 13:30~  
講師：<中世> 鈴木博氏(本館評議員・南木曾町立南小学校長)  
<近世> 山内尚巳氏(本館評議員・飯田市文化財審議委員)  
② 遠山霜月祭の多様性と特質 10/21(土) 13:30~  
講師：桜井弘人(本館学芸員)

◎ 特別展公演

上村中学校「郷土の舞」公演 10/4(水) 10:45~  
公演者：上村中学校生徒 協力：上村遠山霜月祭保存会

◎ 特別展展示解説会

10/1(日)・9(月・第1)・14(土)・28(土)・11/4(土) 15:00~

◎ 美博特別講座「地方という新領域」

関東の水墨画 雪村の魅力 11/12(日) 13:30~  
講師：小川知二氏(美術史家)

◎ 自然講座

ご近所昆虫探検記 10/12(水) 19:00~  
地震情報の読み方 10/19(水) 19:00~  
地震被害想定とハザードマップ 11/16(水) 19:00~  
山の獣がせめてくる 12/9(土) 13:30~  
百姓が語る伊那谷の自然 1/13(土) 13:30~  
ヒマラヤから見た日本アルプスⅧ 1/28(日) 13:30~  
伊那谷自然史発表会 2/18(日) 10:00~

お問い合わせ：0265-22-8118

フィールドを徹底的に歩く 3/8(水) 19:00~

湖沼堆積物から気候変動を探る 3/17(土) 13:30~

◎ 美博文化講座

やさしい仏像の見方 ー密教のほとけたちー 10/3(水) 19:00~  
やさしい仏像の見方 ー禅宗の仏像ー 11/28(水) 19:00~  
飯田町と藩士のくらしぶり 3/4(日) 13:30~

◎ 子ども美術学校

10/14(土)・11/18(土) 13:00~

◎ 子ども科学工作教室

子ども美術学校卒業制作展 12/12(水)~17(日)  
ソーラーカーを作って走らせよう 11/11(土) 10:00~  
FMラジオを作ろう 1/27(土) 10:00~

◎ 宇宙をのぞこう(親子で学ぶ天文講座)

太陽の黒点を探る 10/7(土) 15:00~  
北極星は不変か 11/25(土) 15:00~  
銀河系とその外側は… 2/24(土) 15:00~

◎ プラネタリウムかるた会

1/20(土) 9:30~  
※8月13日に化石クリーニング、20日には化石レプリカ作成を実施します。

◆ 臨時休館日

11/7(水)~9(木)・1/12(金)・2/25(日)

◎ 上郷考古博物館

お問い合わせ：0265-53-3755

◎ ぎやまん工房

ガラス製装身具作り 12・2月 9:30~

◎ 玉造部の会

滑石で勾玉を作ろう 11・1月 9:30~

◎ 伊那谷の城郭探訪Ⅳ

下条氏関係の城郭址の見学会 10/28(土) 9:00~

◎ 平成18年度遺跡調査発表会

飯田下伊那で行われた遺跡調査の状況発表 3月  
※詳細は、後ほど「広報いいだ」でもお知らせします。

◎ 追手町小学校 化石標本室

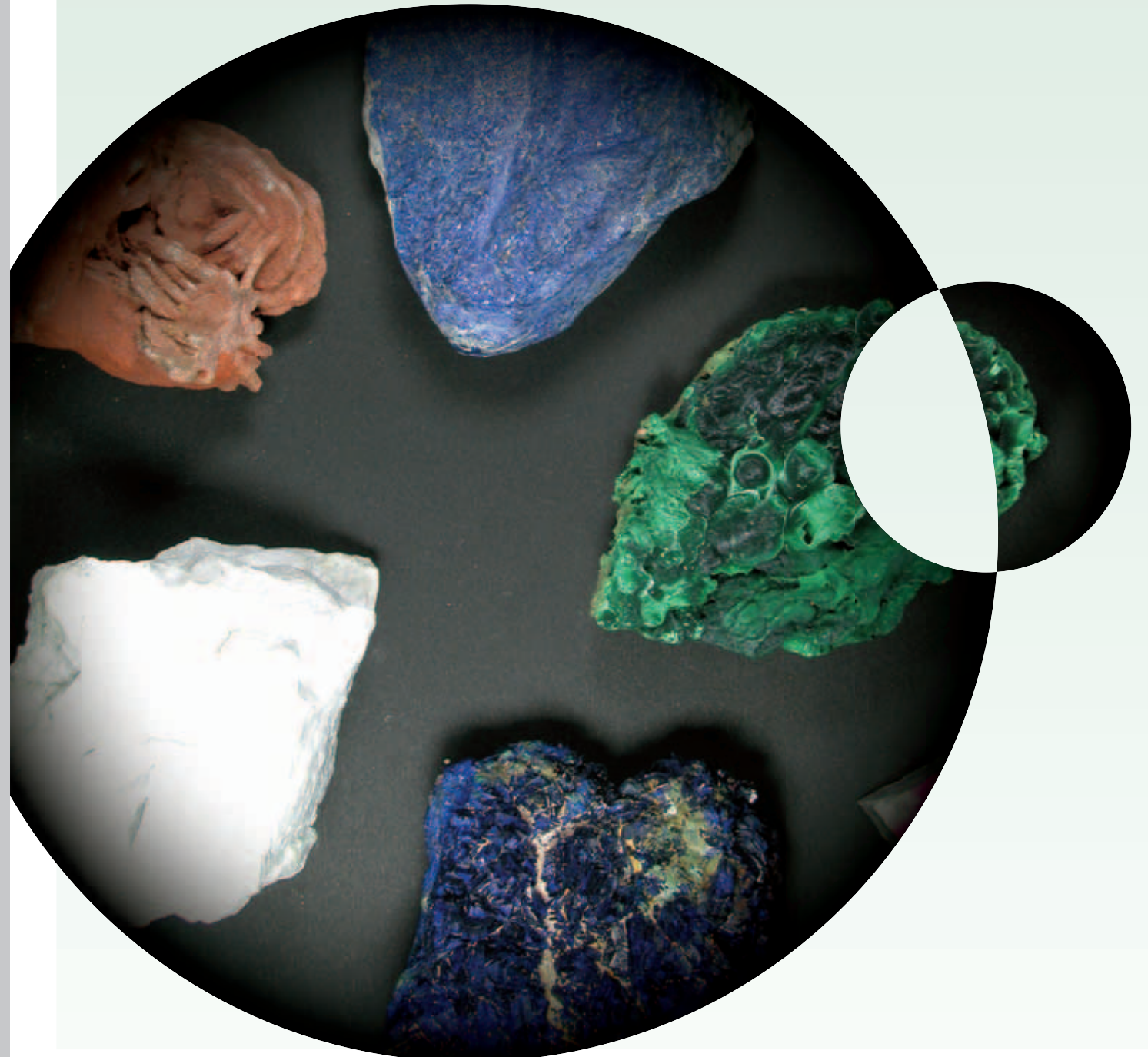
お問い合わせ：美術博物館へ

◎ 公開日 10/15(日)・11/12(日)・19(日)・3/18(日) 10:00~16:00

◎ 化石クリーニング体験 11/12(日) 10:00~16:00

◆ 寄贈品御礼

「伊那旧事記」4冊 大野雅子様 ありがとうございます。



# 遠山霜月祭の世界 — 神・人・ムラよみがえり — ① 10/1(日) → 11/5(日)

伊那山脈と赤石山脈(南アルプス)の間を南北に走る中央構造線に沿って深く刻まれた遠山谷は、古くから「遠山」と呼称され、独自の文化を育んできました。その代表が国重要無形民俗文化財に指定される

「遠山の霜月祭」(遠山祭)です。現在、毎年12月に11か所の神社で開催されています。

この祭は、その名のように旧暦霜月(11月)に、祭場を整えて清め、全国から地元にいる神々を迎えて聖なる湯を捧げます。後段には当地方を江戸時代初期まで領有した遠山氏の御霊や地域の神々が面となって登場します。全体に神事色の強い湯立が丁重にくり返され、神仏混淆の色彩が強く、複雑かつ意味深い儀式と芸能がおこなわれるところに大きな特徴がみられます。冬至における太陽の衰弱と再生になぞらえた「生まれ清まり」の祭として、神も人もムラも、あらゆるもの森羅万象のよみがえりを祈り、豊かな稔りや無病息災を祈る、人びとの切実な願いによって支えられてきたのです。

このたびの展覧会では、昨年10月1日に遠山2村(旧上村・南信濃村)と飯田市が合併して新飯田市が誕生してちょうど一周年となるのを記念して、本地域の歴史と文化、遠山霜月祭の内容とそこに秘められた意義を探ります。そして、こうした

貴重な民俗文化を将来にどう継承したらよいか、考える機会にしたいと思います。

遠山霜月祭では面は神そのものとして崇められますが、今回、上村中郷の16面、南信濃須沢宇佐八幡神社の29面などを特別に公開します。また、この祭を最初に紹介した国学者本居宣長の、『玉勝間』の稿本『本居宣長随筆』(重要文化財)や、伊勢神宮周辺で行われた伊勢神楽や、鶴岡八幡宮で行われ今も



①「神返しの神楽」 上村下栗拾五社大明神

周辺地域に伝承される鎌倉神楽(職掌神楽)関係の資料も展示します。ぜひとも、ご観覧ください。(桜井)



①「鬼神面」 鎌倉、南北朝時代 南信濃木沢八幡神社



①「大天狗」 明治時代初期 南信濃須沢宇佐八幡神社



①「源王大神」 宝暦9年(1759) 上村中郷正八幡宮

# ご厚志に支えられて ③

去る8月に、本館に多くの作品をご寄贈を賜りましたおふたりの方が他界されました。今一度、ご寄贈いただきましたコレクションについてご紹介申し上げ、ご生前のご厚志に感謝いたしたいと思います。

井村コレクションをご寄贈いただきました井村英治さんが、8月18日に84歳で亡くなりました。英治さんは大正11年、箕輪町のお生まれで、飯田町の商家井村家にご養子に入られました。

井村家は、元結問屋や呉服商をつとめた飯田でも有数の商家で、歌人の岩崎長世、日本画家の竹内栖鳳等と交流があり、そのコレクションは当時よりよく知られた存在でした。コレクションを受け継がれた英治さんは、「飯田の人のおかげで先祖が収集した作品だから、飯田の役に立ってほしい」と、書画作品396点を平成6年にご寄贈いただきました。室町、桃山時代の和綴本から明治京都画壇の有名作家まで、幅広い収集品はかつての飯田町の繁栄を偲ぶ作品として当館の主要な

コレクションのひとつとなっています。ご寄贈後も、毎夏、当館をお訪ねいただき、静かにコレクションをご鑑賞されていたお姿を思い出します。

また、飯田市松尾出身の写真家藤本四八さんが、8月19日に95歳で亡くなりました。四八さんは、明治44年のお生まれで、戦前、名取洋之助が主宰する日本工房に入社され、グラフ誌のカメラマンとして活躍されました。戦後はフリーとなり、『日本の彫刻』(昭和26年、美術出版社、土門拳・入江泰吉・坂本万七との共作)、『装飾古墳』(昭和39年、平凡社)で毎日出版文化賞を受賞するなど、日本の美を撮影した作品が高く評価されました。その後、美や信仰を取り巻く土地までを撮り納めた包括的な写真集を次々と上梓され、日本の写真界を牽引者のおひとりとして活躍されました。平成7年に戦後撮影されたすべての

フィルムをご寄贈いただきました。薬師寺や唐招提寺のモノクロ写真から、高野山や白山、富士山など霊山に取材した写真、東京や木曾、嵯峨野といった土地を取り上げた写真、さらには桂離宮や皇居まで、カット数は約2万点に及び、昭和の写真文化の歩みを知るための貴重なコレクションとなっています。かなり高齢になられてからも銀座の街を我が街のように闊歩される姿は今も目に焼きついています。

おふたりの方のご冥福をお祈りし、ご寄贈いただきました作品の意義をあらためて心に留めたいと思います。

(横村)



③「秋雨晚鴉図」 竹内栖鳳 大正元年(1912) 本館蔵(井村コレクション)



③「薬師寺東院堂観音立像」 藤本四八 昭和25年(1950)頃 本館蔵



②伊那谷産アオオサムシの標本



②スルカランナンシツの標本



表紙 / 色とりどりの鉱物標本

当館には、高森町在住の中平豊さんが収集された多数の鉱物標本が収められています。標本箱をのぞくと、結晶面がキラキラ光っていたり、大きさが違っても相似の形がかわいらしく、見ていて飽きないですね。色も実にさまざまです。昔は、鉱物を粉にし膠に溶いて、絵の具をつくっていました。今でも岩絵の具は高価な材料です。

# 自然収蔵コレクション展 — 集める楽しみ、調べる魅力 — ② 11/18(土) → 2/21(木)

人はなぜものを蒐集するのでしょうか? 王冠、牛乳瓶の蓋、きれいな石ころ、切手、古銭、メンコ…。誰しも遙か彼方の思い出の中に、コレクションにまつわる記憶が残っているのではないのでしょうか。

博物館は、「もの」を集め、整理し、保存する役割を担っています。昆虫、植物、骨、化石、鉱物、岩石…。自然界から取り出し磨き上げ、一点一点整理して保管します。ゴミのようにも見えるたった1点の寡黙な標本も、100点、1000点と集め整理していくと、標本たちはしだいに饒舌になり、さまざまなストーリーを語りはじめるのです。

「もの」たちの声が聞こえてくるようになれば、コレクションの楽しみにドブブリと浸かってしまった証拠です。そして博物館で働く学芸員たちはその虜になってしまった人種だといえるかもしれません。

標本が語るの、地球の歴史や生き物の進化、森の履歴、地域の形成史、生き物たちの生きる様。それらは調べられ、展示や講座で紹介され、論文や書籍として広く公表されていきます。

一つ一つ積み重ねられ博物館の収蔵庫に保管されたコレクションは、一人の人間の寿命の何倍も長生きして、未来の子孫たちへ確実に引き継がれていくべきものです。100年、200年を経た標本は誰よりも正確に過去を語り、さらなる未来へと命をつないでいくのです。

当館が開館して18年。この期間に積み上げた自然のコレクションとその研究成果の一部を紹介します。標本そのものだけでなく、標本が語るストーリーにも耳を傾けてみてください。(四方)